

# 福岡市消防局 救急ガイドブック



福岡市消防局  
マスコットキャラクター  
ファイ太くん

## 【高齢者施設編】

福岡市消防局 救急課

福岡市消防局ホームページアドレス <http://119.city.fukuoka.lg.jp>

# はじめに

福岡市の救急出動件数は、近年増加の一途をたどっており、救急車の現場到着時間も少しずつ遅くなっています。

福岡市消防局では、できるだけ早く緊急の患者さんのもとに救急車が到着できるように、救急車の適正利用を呼び掛けるとともに、緊急時には迷わず救急車を呼ぶよう取り組みを行っています。



また、高齢化の進展に伴い、65歳以上の高齢者の救急搬送が増えており、高齢者福祉施設等(以下「施設」といいます。)からの救急要請も増加しています。

施設からの救急要請は、入所者の急病や施設内での転倒事故等に起因したものが主ですが、中には、「もう少し注意していれば・・・」「事前に対策しておけば・・・」など、未然に病気やケガ等を防げたかもしれない事例も多く発生しています。

この「救急ガイドブック」は、施設内でできる病気やケガの予防のポイントをご紹介しますとともに、もしもの時に、救急対応を円滑に行えるように作成したものです。

また、それ以外にも、緊急時ではない場合に利用できる患者等搬送事業者(民間救急)の情報や救急車を要請する場合の注意点、救急車を呼ぶかどうか迷った時の問い合わせ先など、救急に関わる情報を掲載しています。

いざという時の対応方法を事前に施設の職員間で確認し、職員が自信を持って対応し、施設利用者が、安心して末永く元気で暮らせるようにご活用いただければと考えています。

# 施設内での予防対策について

施設内でできる病気やケガ等の予防のポイントをご紹介します。

## 1 手洗い・マスク着用の励行

インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が発生、拡大しないように、職員の皆さまだけでなく、入所者全員の手洗いや手指の消毒、必要に応じたマスクの着用などを徹底してください。

また、感染経路(接触・飛沫・空気など)や嘔吐物などの正しい処理の方法など、感染予防対策を知ること、施設内での二次感染を防げます。感染症に対しての正しい知識を身に付けてください。

## 2 転倒・転落防止

高齢者は、普段生活していて慣れている場所でも、**小さな段差でつまずき転倒**し、骨折を伴うような重症となる場合もあります。

施設内の段差や滑りやすい場所などの危険な場所に注意するとともに、日頃から**整理・整頓**を心がけ、電気コードの取り回しにも注意し、さらに廊下や部屋の**明るさなどにも配慮**することで、転倒などの事故を防ぐことが可能です。

職員の皆さまで施設内の確認をしてみましょう。

また、飲み物などがこぼれて、床が濡れている場合、滑って転倒してしまうことがありますので、できるだけすみやかに拭き取るように心掛けてください。(11ページ参照)

## 3 誤嚥・窒息の予防

脳梗塞や神経疾患のある高齢者は、嚥下運動が阻害され、飲み込みにくくなっていることや咳をしにくくなっていることもあり、誤嚥や窒息が生じやすくなっています。

ゼリー、お餅、大きなお肉はもちろん、飲み込みにくいパンなどでも、窒息事故が起きています。

食べ物を、**小さく切って**食べやすい大きさにするだけでなく、ゆっくりと食事に集中できるような環境作りや、施設職員が食事の様子を適宜見るなど注意してください。

もしも、食事中におせるなどの症状があった場合は、食後の容態変化にも十分注意しましょう。(11ページ参照)

## 4 ヒートショックへの注意

冬季は「ヒートショック」などによる救急事故が増える時期となります。居室だけでなく、施設内の風呂場やトイレ、廊下などの温度変化にも注意し、**急激な温度変化を作らない環境づくり**を心がけましょう。

## 5 熱中症への注意

高齢者は、体温調整機能が低下していることも多く、さらに喉の渇きを感じにくくなっている場合もあります。

「まわりに迷惑をかけたくない」という思いから、水分を摂るのを控えたりすることもあります。が、**適切に水分補給等**を行ってください。

また、暑い時は、必要に応じて**エアコンや扇風機など**を利用したりすることで、熱中症を防ぐことが可能です。

もし、体調の不良を感じたら早めに周囲の方に支援を求めることも大切です。

その他、日頃から規則正しい生活をこころがけ、体調を整えておくことも重要です。

## 6 服薬後にも注意を

薬によっては、服薬後に思った以上にふらついてしまい、ベッドから起き上がる際などに、転倒・転落してしまうことがあります。

**処方薬の副作用を確認**しておくことも大切です。

お薬が替わった時などは、特に注意をしてください。

## 7 生活状況の記録

職員の皆さまは、入所者の普段の生活状況について誰よりもよくご存知です。

毎日の状況を記録し、いざという時のために、職員の皆さまが、入所者の状況を把握でき、医師や救急隊へ正確な情報を伝える仕組み作りも重要です。

救急要請時に必要な情報を「救急シート」(7ページ参照)等を活用し、事前に作成しておくことで、救急隊へスムーズな情報伝達が可能となります。様式が必要な場合は、福岡市消防局救急課までお問い合わせください。

※「救急シート」は参考様式であり、必ずしもこの様式を使う必要はありません。

※「救急シート」に記載の情報は、定期的に見なおしを行ってください。

※記入要領については8ページを参照してください。

## 8 かかりつけ医、協力病院との連絡体制の構築

普段から、かかりつけ医師や協力病院との連絡を密にし、容態が変化した時に、相談や受診ができる体制を作っておきましょう。

高齢者であることを認識し、体調の変化に気づき、症状が発症した場合には、早めに医療機関を受診する体制を構築してください。

医療機関を受診する場合は、**症状が悪化する前に受診することが大切です。**

また、緊急性のない場合は、施設等の車両や、タクシー、**患者等搬送事業者(民間救急)**などの利用をお願いします。(6ページ参照)

**緊急かどうか迷う場合**は、かかりつけ医師や協力病院に相談するほか、**#7119(福岡県救急医療電話相談)**にも相談することができます。(6ページ参照)

ただし、**緊急と判断した場合は、迷わずに119番に連絡して救急車の要請をしてください。**

## 9 事故発生時の対応

施設内で事故防止に努めていても、緊急事態が起こらないとも限りません。いざという時に慌てないように、施設内で、職員の皆さまがどのように行動したらよいか検討し、対応要領のシミュレーション訓練を行ってください。

休日・夜間など、少ない人数で対応しなければならない時は、特に事前の準備が重要です。

緊急時に対応する資器材(AED、吸引器、救急バッグなど)の設置状況や、連絡体制などの確認も事前に行ってください。

## 10 応急手当の習得と実施

入所者が生命の危険にさらされたとき、最初に気づくのは職員の皆さまです。福岡市消防局では、いざという時のための応急手当を学ぶ「救命講習会」を開催しています。胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使い方、のど詰めの対処法、止血方法など学ぶことができますので是非一度受講しておいてください。

万が一、入所者が応急手当が必要な時は、勇気をもってできることをやっていただきますようお願いいたします。

※救命講習の日程等については、消防局ホームページをご覧ください。

※夜間講習や土日祭日の講習も計画しています。

※受講者が30名程度であれば、出張して救命講習を実施します。

※詳しくは、消防局救急課(TEL・092-725-6574)までお問い合わせください。



救命講習について

# 救急要請のポイント

## 1 施設内での対応

救急車の要請となれば緊急事態です。

①緊急事態が発生したことを、施設内職員に知らせてください。

②事前に決めた役割に応じて対応をします。

ア **119番通報**(可能なかぎり患者さんの近くから携帯電話で行い、住所、建物名称を確実に伝えてください。)(10ページ参照)

イ **傷病者への応急手当**

③**緊急時に連絡を行う職員(担当医・看護師など)への連絡**

※**傷病者の近くから通報することにより**, 119番の職員からの応急手当についてのアドバイス(**口頭指導**)や、現場に急行している救急隊からの事前連絡などを受けることができ、容態変化や医療機関への迅速な搬送につなげることができます。

※**名札や携帯電話など常に身に付けているものの裏などに、施設の住所などを明記**していると通報時に役に立ちます。

※携帯電話の**ハンズフリー操作(スピーカーホン)**を事前に確認しておくこと緊急時に役に立ちます。

※119番通報後、容態変化があったときは再度119番通報してください。

## 2 協力病院への連絡と搬送病院の確保

①状況に応じて、協力病院やかかりつけ医師にも連絡してください。

②あらかじめ搬送先医療機関を交渉・確保されている場合は、当該医療機関への搬送を優先しますが、入所者の病態や状況により緊急を要する場合は、救急隊が別の医療機関に搬送する場合もあります。

## 3 施設職員又は家族の同乗

救急要請された場合は、施設職員やご家族など状況のわかる方の同乗が必要です。

①医療機関への申し送りが必要です。

②救急シート等・看護記録・介護記録・カルテ等を持参してください。

③保険証・お薬手帳など持参してください。

## 4 DNAR(蘇生処置しないで)の意思表示

①傷病者や家族からDNAR(蘇生処置をしないで)の意思表示がある場合は、あらかじめ協力病院やかかりつけ医師に急変時の対応について相談しておいてください。

②DNARの意思表示がある場合でも、**救急要請があれば救急隊は応急処置を何もしないで医療機関へ搬送することはできません。**

救急隊の活動にご理解とご協力をお願いします。

## 5 患者等搬送事業者(民間救急)の活用

救急車や救急医療は限りある資源です。

緊急を要さない場合などは、自家用車やタクシー、患者等搬送事業者(民間救急)などの活用に、ご理解とご協力をお願いします。

### 【緊急性が低いと認められる事例】

- ①寝たきりであるが、人手がないからなどの理由の場合
- ②寝台車を利用すれば病院に行ける場合
- ③病院への通院等

福岡市消防局が認定している患者等搬送事業者は、定期的に訓練なども受けた乗務員が、規程に定められた寝台車などを用いて、緊急性のない患者さんの搬送事業を行っています。

福岡市消防局が認定した患者等搬送事業者は、下記のとおりです。

サービス内容や料金等については、各事業者にご確認ください。

### ●患者等搬送事業所(民間救急)

事業所名	住所	連絡先
清流タクシー(有)	早良区重留4丁目2-62	092-804-1000
(有)大鵬タクシー	南区花畑1丁目13-1	092-551-5311
西日本自動車(株)	中央区那の津5丁目4-3	092-761-7160
南部タクシー(有)	城南区片江5丁目7-17	092-871-2386
飯倉タクシー(株)	早良区東入部2丁目15-47	092-872-3155

## 6 福岡県救急電話相談・医療機関案内

救急車を呼ぶかどうか迷ったときは「#7119」に電話すると、24時間年中無休で、看護師による相談や、現在受診できる最寄りの医療機関の案内を受けられます。

救急車? 病院? 迷ったら

# #7119

福岡県救急電話相談・医療機関案内

**24時間受付**

**年中無休**

救急車の利用や  
最寄りの医療機関に  
ついてアドバイスします。

救急電話相談の流れ #を押して7119または092-471-0099

自動音声ガイダンス

医療機関を探す

1 を押す

---

救急相談したい

2 を押す

救急医療情報センター

救急医療機関のご案内

救急相談

(救急相談として受けられない内容)

- 医師の診断内容に関する相談
- 医療機関の対応に関する相談 等

#を押して7119または092-471-0099

緊急時は、迷わずに **119番**へ!

○突然の激しい頭痛  
○急な息切れ ○呼吸困難 等

福岡県  
FUKUOKA PREFECTURE

## 救急シート

入所者の情報を記入し、救急隊に渡してください

記入日

年 月 日

ふりがな			
氏名			
生年月日	明治・大正・昭和	年	月 日 (才)
住所	施設以外に住んでいるとき		

何をしている時 どうなりましたか？	
日常生活	自立・伝い歩き・歩行器・車椅子・寝たきり・麻痺(右・左)
今かかっている病気	脳梗塞・脳出血・心筋梗塞・狭心症・高血圧・心不全・呼吸不全・肺炎・喘息・糖尿病・肝疾患・腎疾患・認知症・(B型・C型)肝炎 癌( )→※告知(有・無) <u>その他：あれば記入してください。</u>
かかりつけの病院	〇〇病院、〇〇先生
常用している薬品名	降圧剤・糖尿病薬・インスリン・血液サラサラ, 【お薬手帳があったら持ってきてください、なければ記入してください】
アレルギー	あり(薬・食べ物)・なし
最後の食事の時間	月 日 時ころ
今回の搬送先	

## 緊急時連絡先

氏名	続柄	連絡先	住所
その他(伝えたいこと) (DNAR)の話し合い等			
特記事項	・この救急シートは、救急業務以外には使用しません。 ・救急搬送終了後に、同乗の施設関係者に返却、又は家族、搬送先医療機関に渡します。		

※網かけの欄は、救急要請時に記入をしてください。

Ver.1.0



# 救急シート

記入例

入所者の情報を記入し、救急隊に渡してください

記入日 年 月 日

ふりがな	ふくおか たろう		
氏名	福岡 太郎		
生年月日	明治・大正	昭和	9年 9月 9日 (〇〇才)
住所	施設以外に住んでいるとき	福岡市中央区舞鶴3丁目9-7	

何をしている時 どうなりましたか?	食事中に意識をなくした。
日常生活	自立・伝い歩き・歩行器・車椅子・寝たきり・麻痺(右・左)
今かかっている病気	脳梗塞・脳出血・心筋梗塞・狭心症・高血圧・心不全・呼吸不全・肺炎・喘息・糖尿病・肝疾患・腎疾患・認知症・(B型・C型)肝炎 癌( )→※告知(有・無) その他:あれば記入してください。
かかりつけの病院	〇〇病院、〇〇先生 舞鶴病院 脳神経内科 福岡先生
常用している薬品名	降圧剤・糖尿病薬・インスリン・血液サラサラ、 【お薬手帳があったら持ってきてください、なければ記入してください】 ワーファリン
アレルギー	あり(薬・食べ物 甲殻類)・なし
最後の食事の時間	12月 12日 12時ころ
今回の搬送先	救急隊判断

## 緊急時連絡先

氏名	続柄	連絡先	住所
福岡 一郎	兄	090-119-0119	福岡市中央区舞鶴3-9-7
その他(伝えたいこと) (DNR)の話し合い等	常時酸素2リットル投与, Spo2=90%を維持 何かあった時は、救急病院へ搬送してもらうよう往診医師と話し合っています。		
特記事項	・この救急シートは、救急業務以外には使用しません。 ・救急搬送終了後に、同乗の施設関係者に返却、又は家族、搬送先医療機関に渡します。		

※網かけの欄は、救急要請時に記入をしてください。

Ver.1.0

変更した日付けを記入します。

※救急要請時に記入してください。

内容は常に最新のものになるよう適宜見直しを行ってください。

※救急要請時に記入してください。

事前に搬送先が決まっている場合は病院名を、決まっていな時は「救急隊判断」と記入ください。

# 心肺蘇生の手順



ファイ太くん

## 1 安全の確認

周囲の状況が安全かどうか確認します。

危険がある場合には傷病者（倒れている人に）に近づかず救急隊の到着を待った方がよいこともあります。

## 2 反応の確認

傷病者に近づき、耳元で「大丈夫ですか」「もしもし」などと呼びかけながら傷病者の肩を軽くたたき、反応（意識）があるかないかを確認します。

反応があれば、傷病者の訴えを聞き、必要な手当を行います。



## 3 助けを呼ぶ

反応がなければ大きな声で助けを呼び、協力者が来たら「救急車を呼んでください!」「AEDを持ってきてください!」と要請します。

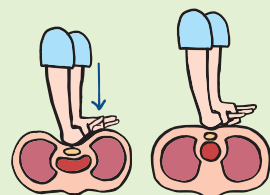
誰もいなければ、まず自分で119番通報することを優先します。

※119番通報をすると電話を通して、あなたや応援に来てくれた人が行くべきことを指導してくれる「口頭指導」を受けることができます。  
できるだけ傷病者の近くから119番を行ってください。



## 4 呼吸をみる

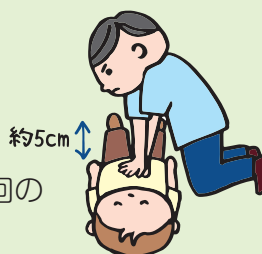
胸とおなかの動き（呼吸をするたびに上がったたり下がったりする）を見ます。呼吸がない、普段通りの呼吸がない、普段通りの呼吸かどうかわからない場合は、すぐに胸骨圧迫を行います。



約5cm 圧迫する。 元の位置にもどす。

## 5 胸骨圧迫! 「強く」「早く」「絶え間なく」

胸骨圧迫は胸の真ん中を、約5cm、1分間に100回~120回のリズムで圧迫します。



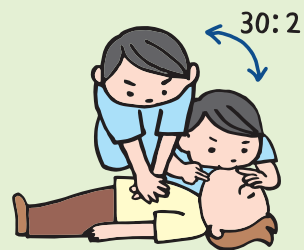
約5cm

垂直に圧迫する!

## 6 胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ

人工呼吸の訓練を受けていて、人工呼吸を行う意思があれば、人工呼吸と胸骨圧迫を組み合わせ実施します。

※人工呼吸のやり方に自信がない、ためられる場合は、胸骨圧迫だけを続けます。  
※救助者が1人のときは、119番通報を優先します。



「JRC蘇生ガイドライン2015」

## 救マーク制度



「救マーク」とは、その施設や事業所に、定期的に救命講習を受講された従業員などがいるということを表すもので、施設を利用される方に「安心」を感じていただけるものです。

また、「救マーク」を掲げることで、その施設や事業所の従業員の「応急手当の担い手」としての自覚を促し、継続的かつ定期的な救命講習の受講につなげることを目的としているものです。

### 【認定要件】

- ①救命講習を受講した従業員が、原則としてその施設の公開・営業時間中に勤務し、速やかに応急手当が実施できること。
  - ②応急手当を必要とする傷病者が発生した場合に、救急隊とのスムーズな連携が行えるよう、救急活動計画書を策定していること。
- 詳しくは、消防局救急課(TEL:092-725-6574)へお問い合わせください。 ※申請は無料です。



# 通報の流れ



119番通報



火事・救急



住所・目標



傷病者の方の状態  
燃えている物の状況など



こちら119番です。  
火事ですか。救急ですか。

救急です。

救急車を向かわせる住所をお願いします。

〇〇区〇〇〇丁目〇番〇号、  
福祉施設〇〇です。

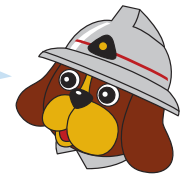
どなたがどうされましたか？

入所者の方が、胸が苦しく動けません。  
お話は可能です。

今は患者さんの近くですか。

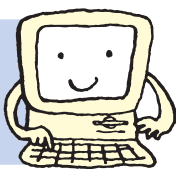
はい。別の職員がAEDも準備しています。

わかりました。それでは、そのまま近くで  
様子を見て、容態が変わったら、再度119  
番通報してください。



詳しい情報を聞くため、  
指令センターから連絡をする場合があるので、  
名前と連絡先を必ず伝えましょう。

福岡市消防局の  
ホームページで  
**119番通報メモ**を  
簡単に作成できます。



## AEDの使い方

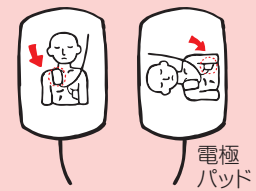


### 1 AEDの電源を入れる

種類によっては、ふたを開けると電源が入るものもあります。電源を入れたら、以降は音声メッセージに従って操作します。

### 2 電極パッドを貼り付ける

衣服を取り除き、肌に直接電極パッドを貼り付けます。



電極パッドの貼り付け位置が図示されている

### 3 心電図の解析

「体から離れてください」などの音声メッセージが流れ、心電図の解析が自動的に始まります。



傷病者から離れる

### 4 電気ショックと心肺蘇生の再開

電気ショックの指示が出たら、傷病者の体に誰も触れてないことを確認して電気ショックボタンを押します。電気ショックボタンを押したらすぐに心肺蘇生を再開します。

電気ショックが不要な場合は、心肺蘇生の手順を続けます。

### 心肺蘇生の中止のタイミング

- ① 普段通りの呼吸がもどり、呼びかけに反応したり、目的のある仕草が認められたとき。
- ② AEDの指示があったとき
- ③ 救急隊に引き継いだとき

呼吸がとまったり、普段通りでない呼吸に変化した場合はただちに心肺蘇生を再開します。

※AEDは救急隊に引き継ぐまで、パッドをはがしたり、電源を切ったりしないでください。

〔JRC蘇生ガイドライン2015〕

実は多い  
家の中にある  
危険な場所

こんな事故が多く起きています。

# 事故予防チェック!



**1位 転倒**  
段差、玄関、廊下など

**4位 ぶつかる**  
家具、人、柱、ドアなど

**2位 転落**  
階段、ベッド、脚立、椅子など

**3位 窒息**  
食物(餅・肉等)、薬等の包装など



←他にも危険な事例がたくさんあります。確認してみましょう。

救急お役立ちポータルサイト **FDMA 消防庁** 救急ポータルサイト 検索 ※発生事例の多い順に番号をつけています。参考資料「東京消防庁救急搬送データからみる日常生活事故の実態」

## 事故の原因を知って対策をしましょう!

**1位 転倒** 段差、玄関、廊下など

- 段差につまずかないよう気をつけましょう
- 転倒を防ぐために整理整頓を心がけましょう
- 階段、廊下、玄関、浴室など滑り止め対策をしましょう

**2位 転落** 階段、ベッド、脚立、椅子など

- 階段などには手すりを配置しましょう
- ベッドにも転落防止の柵をつけましょう
- 脚立などを使用して作業をする時は補助者に支えてもらいましょう

**3位 窒息** 食物(餅・肉等)、薬等の包装など

- 細かく調理。ゆっくりよく噛むことで窒息予防
- お茶などの水分を取りながら食事をしましょう
- 急に話しかけて、あわてさせないように気をつけましょう

**4位 ぶつかる** 家具、人、柱、ドアなど

- 慌てず、周りをよく見て行動しましょう
- 通路などに物を置かないようにしましょう
- 暗いところは十分な明るさを確保しましょう



事故を防ぐために

- 事故防止にはご家族などの協力も大変重要です
- 熱中症対策には、早めの水分補給を心掛けましょう



FDMA 消防庁 救急ポータルサイト 検索 ※発生事例の多い順に番号をつけています。参考資料「東京消防庁救急搬送データからみる日常生活事故の実態」

出典:消防庁ホームページ(https://www.fdma.go.jp)